神奈川県

掲載日：2019年12月19日

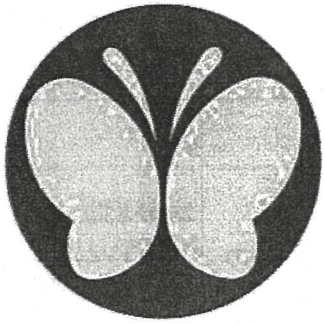
障がい者に関するマーク

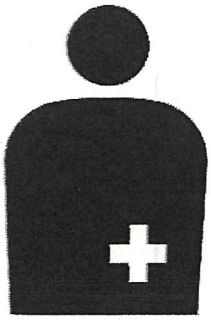
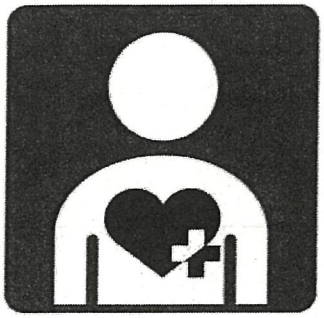
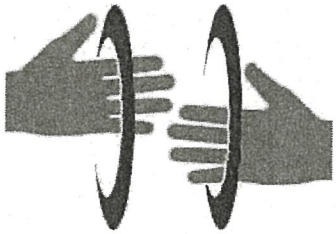
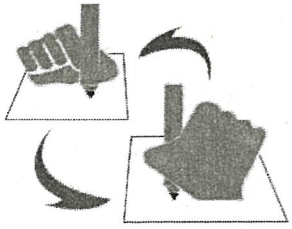
障がい者に関するマークの一例

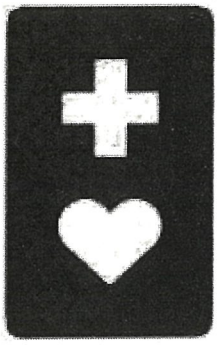
各団体等が作成・所管する障がい者に関係するマークの一例を紹介します。
それぞれのマークの趣旨等をご理解いただき、必要に応じてご協力をいただきますようお願いします。

※　マークは、各団体・行政機関が作成・所管していますので、お問い合わせ等は各マークを作成している団体等にお願いします。

マーク	趣旨・内容	問合せ先等
障害者のための国際シンボルマーク	障がい者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。マークの使用については国際リハビリテーション協会の「使用指針」により定められています。 ※すべての障がい者の方を対象としているマークです。	公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 電話　03-5273-0601 FAX　03-5273-1523
盲人のための国際シンボルマーク	世界盲人連合で1984 年に制定された世界共通のマークで、視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物・設備・機器などにつけられています。 信号や音声案内装置、国際点字郵便物、書籍、印刷物などに使用されています。	社会福祉法人日本盲人福祉委員会 電話　03-5291-7885 FAX　03-5291-7886
身体障害者標識（身体障害者マーク）	肢体不自由であることを理由に運転免許に条件を付された方が車に表示するマークです。 やむを得ない場合を除き、このマークをつけた車に幅寄せや割り込みを行った場合には、道路交通法違反となります。	各警察署

聴覚障害者標識 **（聴覚障害者マーク）** 	政令で定める程度の聴覚障がいのあることを理由に運転免許に条件を付された方が車に表示するマークです。 やむを得ない場合を除き、このマークをつけた車に幅寄せや割り込みを行った場合には、道路交通法違反となります。	各警察署
耳マーク 	聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークでもあります。 また、自治体、病院、銀行などが、聴覚障がい者に援助をすることを示すマークとしても使用されています。	一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 FAX　03-3354-0046
ほじょ犬マーク 	身体障害者補助犬法の啓発のためのマークです。補助犬とは盲導犬、介助犬、聴導犬のことを言います。身体障害者補助犬法に基づき、不特定多数の方が利用する施設（デパートや飲食店など）では、補助犬の受け入れが義務づけられています。	神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課 電話　045-210-4709
オストメイトマーク	オストメイト（人工肛門・人工膀胱を造設した方）を示すシンボルマークです。 オストメイト対応のトイレ等の設備があることを示す場合などに使用されています。	公益社団法人日本オストミー協会

		電話　03-5670-7681 FAX　03-5670-7682
ハート・プラスマーク 	内臓に障がいのある方を表しています。 心臓疾患などの内部障がい・内臓疾患は外見からは分かりにくいため、様々な誤解を受けることがあります。 そのような方の存在を視覚的に示し、理解と協力を広げるために作られたマークです。	特定非営利活動法人ハート・プラスの会
手話マーク  **筆談マーク** 	手話や筆談で対応をお願いしたり、手話や筆談で対応できること、手話ができる人がいることを示すマークです。	一般財団法人全日本ろうあ者連盟 電話　03-3268-8847 FAX　03-3267-3445
ヘルプマーク	義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。	神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課 電話　045-210-4709



ツイート

このページに関するお問い合わせ先

福祉子どもみらい局 福祉部障害福祉課
福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課へのお問い合わせフォーム
社会参加推進グループ

このページの所管所属は福祉子どもみらい局 福祉部障害福祉課です。

アーティスト・プロフィール

MATHRAX（マスラックス）〔久世 祥三＋坂本 茉里子〕

“人の感覚とデジタル技術と社会”をテーマに活動するアートユニット。電子回路やプログラミングに精通する久世と、社会と自分とのつながりをアートによって表現する坂本。2人が織りなす唯一無二の作品の数々は、人々の新たな感覚を呼び起こしてくれる。

岡田智代

日常に目を向け、生きるように踊るダンサー。幼少時から踊り続け一度は離れるも3児の母となり再びダンスの世界へ。大規模公演や演劇の舞台で活躍する一方で、中高年や親子向けワークショップにも注力。人の仕草や佇まい、交差などに面白みを感じ台所や畳半畳でもできる“手芸のようなダンス”も踊り続ける。

松永勉

人と人、人と地域、今と未来をつなぐことをテーマに活動する映像作家。映画やコマーシャルの仕事に携わったのち、東日本大震災を機に映像の役割を見つめ直し、「未来シネマ」の活動をスタート。新しいライフスタイルや教育、地域活動の現場を映し出し、そこから垣間見える“幸せの方程式”を伝えている。

先生の声

庄田先生（肢体不自由教育部門）

最初は怖がっていた生徒も、そのうち手首も頬も柔らかくなり、「触ろう」という意志が出てきました。最後は寝ちゃうほど心地良くなっていて驚きました。

鶴岡先生（知的障害教育部門）

子どもたちにとって心地よい刺激のある貴重な体験でした。調子が悪かった子も終わる頃にはニコニコしていて、グッときてしまいました。

守屋先生（教頭）

どちらのクラスもいつもより落ち着いていて、触れながら子どもたちの表現を引き出していく作品の力を感じました。社会に出て1人で時間を過ごすためのヒントになる体験でした。

吉田先生（校長）

作品に触れ、音の響きを聴くことで、変わっていく子どもたちの姿。それが、この作品が子どもたちの心の奥の奥まで届き、全身で体感していることのもっとも確かな証だと感じました。

もっと詳しく！ 先生・アーティストの声

アーティスト：MATHRAX（マスラックス）（アートユニット）・岡田智代（ダンサー）・松永勉（映像作家）
香り：窪田正男・石川夏与（花王株式会社 感覚科学研究所）・協力：三枝千尋（花王株式会社）
レポート：池田美砂子 ／ 写真：八幡宏 ／ デザイン：株式会社ボンド ／ 担当：藤川悠（茅ヶ崎市美術館）

茅ヶ崎市美術館
CHIGASAKI CITY MUSEUM OF ART

2020年11月14日(土)～12月6日(日)

休館日	月曜日（但し、11/23は開館）・11/24（火）
開館時間	10時～17時（入館は16時30分まで）
会場	茅ヶ崎市美術館 エントランスホール
観覧料	無料
主催	神奈川県 茅ヶ崎養護学校 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
特別協力	花王株式会社 kao

⚠ 触れる作品については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため手袋の着用をお願いしております。

（イラスト：MATHRAX 坂本茉里子）

神奈川県が推進する**「ともいきアートサポート事業」**。その一環として、この秋、茅ヶ崎市美術館は茅ヶ崎養護学校中等部の皆さんとともに**“音”と“身体”に焦点をあてたワークショップ**に取り組みました。音と触覚をテーマに活動するアートユニットの作品と身体表現のプロであるダンサーに誘われるように、生徒の皆さんは作品に触れることで生みだされる音に導かれ、それぞれの触れ方を楽しんでいました。教室にあふれた様々な**“触れる”表現**は、映像作家のカメラに収められ、美術館に展示されています。同時開催の「茅ヶ崎寒川地区中学校美術作品展」とあわせ、地域の同年代の**多様な表現活動**にふれていただく機会となるでしょう。

また、「社会包摂」をテーマの一つに昨夏開催した展覧会「美術館まで（から）つづく道」において注目を集めた、**視覚、触覚、聴覚、嗅覚**から感じる作品《うつしおみ》を改めて展示します。実際に作品を体験していただくことで、一人ひとりが**異なる身体や感覚**をもつこと、**物事の捉え方やその表現方法**も違うということに気づき、その**「違い」を認め合う**。そのような美術館でのひとときを過ごしていただけましたら幸いです。

ともいきアートサポート事業とは

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念に基づいて、障がいの程度や状態にかかわらず、誰でも文化芸術を鑑賞、創作、発表する機会の創出や環境整備を行うため、展示や創作活動支援等を実施しています。

ともに生きる社会 かながわ憲章
KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society

＜事業統括＞
神奈川県福祉子どもみらい局
共生社会推進課

「触れる」”静”と”動”

～あらゆる表現が祝福されたとき～

文・池田美砂子（フリーライター）

「触れる」ということ。それは、何かと関わるということ。ものに触れ、ひとに触れ、自然に触れ、自分自身にも触れて。私たちは日々、あらゆるものとの関係性を紡ぎながら生きています。

10月初旬、秋風が心地よく吹き抜ける茅ケ崎養護学校に、1つのアート作品が舞い降りました。一直線に伸びる小路のような台の上に小さな木のオブジェが並ぶ、なんとも愛らしく、それでいて凛とした空気感をまとった《うつしおみ》。その一部が、音楽室に設置されたのです。「触れる」をテーマの1つにした本作と多様な生徒との関わりから、導き出されたものとは ——

重なり合う音に誘われるように

この日、音楽室に集合したのは、肢体不自由教育部門の7名の中学生のみなさん。「何が起こるのだろう……」。初めて出会う《うつしおみ》を前に、期待と不安が入り混じった様子の生徒のみなさんに、まずはワークショップの講師である岡田智代さんが「手を叩いてみましょう。音が聴こえますか？」と促しました。パチパチパチ。先生たちに導かれながら手の鳴る音に耳を傾けるみなさん。続いて手渡された和紙のように柔らかな紙を、クシャクシャと丸めて、ビリビリとちぎって。手触りと音を一つずつ丁寧に感じ取っていく様子が印象的です。

「では、作品を触ってみましょうか」。岡田さんの合図で、車椅子のまま《うつしおみ》に近づき、先生のリードでオブジェに触れると、柔らかな音が鳴り、重なり合い、教室中に響き渡りました。心地よい音の共鳴に誘われるように、次第に自ら手を伸ばすようになったみなさん。ある生徒さんは、丸みを帯びたオブジェに触れ、指先から滑らせるように掌の中へ納め、最後には大事そうに握り締めました。その隣では、人差し指が平べったいオブジェの上でトントンとステップを踏んでいたり、柔らかな手が狐をかたどったオブジェをゆっくりと包み込んでいたり。重奏感を増す音の中で、それぞれの「触れる」が豊かに表情を変えていきました。そんな中、細い指で小さなオブジェを撫で続けていた生徒さん、自分が奏でる音に気づいたのか、フッと目線を動かしました。他のみなさんも、時間とともに身体がゆるみ、そのうち表情までも柔らかさをまとっていきました。

ワークショップ後半、岡田さんと《うつしおみ》の制作者MATHRAXの2人がゆったりと和音を奏でると、目を細め、今にも眠ってしまいそうな生徒さんの姿も。最後には自分の頬や掌にも触れ、自分自身の中にある感覚を確かめているようなみなさんの様子を眺めながら、「触れる」という行為一つひとつの美しさ、愛おしさを噛み締めました。

「触れる」が踊り出す

1週間後、今度は知的障害教育部門の中学生9名が《うつしおみ》とご対面。音楽室に入ると、すぐに作品に駆け寄り、指を差し、興味津々といった生徒さんたちの様子が熱気とともに伝わってきます。

岡田さんのナビゲートで、この日は体操からスタート。手指を動かしたり、足で床を鳴らしたり、頬を叩いたり。身体を使って音を出す行為を、歓声を上げて楽しんだ後は、紙を小さくちぎり、ギュギュッと丸めて、思い思いにその感触を味わいました。岡田さんの「音が聴こえる？」という呼びかけに「聴こえますよ」と応答し、MATHRAXの2人と一緒に紙に触れて、生徒と講師の間に安心の関係性が育まれていきます。

そしていよいよ作品へ。「待ってました」と言わんばかりの生徒さんたち、先生の呼びかけで順番に一人ずつ《うつしおみ》へと向かいます。真っ先に手を挙げた生徒さんが、端から端まですべてのオブジェに触れながら軽やかに進むと、駆け上がるような音が響きました。パッと表情を変えたみなさん、次々に作品に歩み寄り、オブジェを順に撫でるように触れていきます。手だけ先に進めて作品に身を委ねるように歩いた生徒さんの次には、滑らかに動かした手を角ばったオブジェで一瞬止め、狐のオブジェを撫でてニッコリした方も。握りこぶしで触れたり、掌のくぼみを押し付けたり、両手を歩かせるように交互にリズムを取ったり。そのうち作品を飛び出し、触れた後にポーズを決めたり、黒板にタッチしたり、ジャンプして喜びを表現したり。「触れる」という表現がどこまでも自由に踊り出しました。

すると突然、廊下で教室に入れずに泣いていた生徒さんが、風のように教室の中へ。波乗りのようにスイスイとオブジェの上で手を滑らせると、また風のように去って行きました。一方、賑やかな教室の隅で1人「いやだ、いやだ」と耳をふさいでいた生徒さんも、「友達と行く？」という先生の言葉に頷き、隣の子の手を取って作品の側へ。一つひとつのオブジェの感触を確かめるように音を奏でると、今度は校長先生を誘いに行き、手を引いて歩きました。岡田さんに手を取ってもらい、ダンスを踊るように触れた生徒さんも。彼らの喜びに満ちた表情は、その場にいた誰もの心に鮮明に焼き付いたことでしょう。

その後もオブジェが並んだ小路には、様々な表情を持つ手と手がお互いを譲り合うように行き交いました。どんなに音が重なり合っても美しく響く《うつしおみ》の包容力があらゆる人を表現者に変え、「触れる」という行為を喜びへと導いていきました。

それぞれの「触れる」が美をまとい、リラックスした“静”の空気に包まれた1日目。「触れる」が踊りだし、喜びあふれる“動”の空間へとつながった2日目。どちらも、一人ひとりの「触れる」という行為が祝福されているかのような、あたたかな時間となりました。